

各 位

上場会社名	朝日工業株式会社	
代表者	代表取締役社長	村上 政徳
(コード番号)	5456)	
問合せ先責任者	常務取締役管理本部長	稲場 進
(TEL)	03-3987-2161)	

通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2018年5月9日に公表しました2019年3月期の通期業績予想について、以下の通り修正することといたしましたので、お知らせいたします。

記

●通期業績予想の修正について

2019年3月期通期連結業績予想数値の修正(2018年4月1日~2019年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	43,000	1,100	1,100	750	107.14
今回修正予想 (B)	41,000	△250	△300	△650	△92.85
増減額 (B-A)	△2,000	△1,350	△1,400	△1,400	
増減率 (%)	△5%	-	-	-	
(ご参考) 前期実績 (2018年3月期)	35,878	△64	△74	△362	△51.82

修正の理由

鉄鋼建設資材事業では、主原料である鉄スクラップ価格の高値推移や、電力や天然ガスなどのエネルギー関連価格、合金鉄や電極など副原料価格急騰により、前年度対比16%増と大幅なコストアップを余儀なくされました。このような状況の中、販売単価の引き上げを行って参りましたが、タイミングに遅れが生じたため、前回業績予想開示時と比べ年度平均販売単価が5%程度下振れする見込みとなりました。この結果、売上高・損益ともに前回予想を大幅に下回る見通しとなりました。

砕石砕砂・マテリアルリサイクル事業では、売上高・損益ともに前回予想並みを見込んでおります。

農業資材事業では、主力の肥料において、主要委託元との取引縮小やその他委託元の販売減少による影響を受けたOEM品の減少を主因とし、有機質肥料の年間販売数量が前回業績予想開示時と比べ10%程度下振れする見込みとなりました。加えて、窒素・リン酸・カリなど肥料の主要原料価格が急騰する中、本格的な製品販売価格への転嫁が2019年度へずれ込むことと、農林水産省の「農業競争力強化プログラム」における生産資材価格引き下げの取組みによる価格下落圧力により、年度平均販売単価が前回業績予想開示時に対し2%程度下振れし、売上高・損益が前回予想を下回る見通しとなりました。

以上の理由から、前回予想の損益を大幅に下回る見込みとなりましたので、通期の業績予想を上記の通り修正いたします。

(注) 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、様々な要因により記載の予想数値とは異なる場合があります。

以 上